

平成26年広島県医師会新年互礼会

と き 平成26年1月13日（月・祝）午後5時

ところ ANAクラウンプラザホテル広島 オーキッド



平成26年1月13日（月・祝）午後5時から、ANAクラウンプラザホテル広島において、広島県医師会新年互礼会を広島県知事、広島市長など多数を招き、盛大に開催した。

県医師会・市郡地区医師会の役員をはじめ、国会議員、県議会議員、市議会議員、医療関係団体など336名が出席した。

年頭のご挨拶



広島県医師会会長
平松 恵一

皆さま、改めまして新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。平成26年、2014年の年頭にあたりまして、広島県医師会員、約6,500人を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の広島県医師会新年互礼会には、お忙しい中にも関わりませず、たくさんの方々にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

たくさんの地元選出の衆・参両院の先生方も

ご出席いただいておりますが、本日は岸田文雄外務大臣にもお越しいただきました。本当に光栄と考えております。また、湯崎英彦県知事、松井一實市長、林 正夫県議会議員、碓井法明市議会議員、広島大学浅原利正学長をはじめ、たくさんの方々にご出席いただきました。大学、行政、市郡地区医師会、広島県の医療に関わります代表の皆さま方、関連友好団体の方々にも揃ってご出席いただいております。

今年の干支は「午」でございます。日本も奔馬の如く勢いよく飛躍の年になれば幸いです。

さて、県医師会は、この4月から一般社団法人として新たな第一歩を踏み出します。これまで医師会が担ってきました地域医療、健康福祉へ

の取り組み、県民・市民の幸せの原点である健康を守るための公益的活動にいつそう今後も取り組んでいく所存でございます。

また、平成27年秋の新医師会館完成に向けて、現在、二葉の里では基礎工事がすでに始まっております。広島県が設置します高精度放射線治療センター（仮称）と合築いたしますが、運営は広島県医師会も引き受けておりますので、湯崎県知事の掲げておられます「がん対策日本一」にふさわしい施設となるよう皆さまとともに進めてまいりたいと考えております。そして、新広島県医師会館を含めました地域医療総合支援センター（仮称）の中には広島県地域保健医療推進機構も入ることになっております。

医師不足、特に中山間地域の医師不足によりまして、地域医療体制は崩壊の危機に瀕しております。われわれ県医師会は広島県地域保健医療推進機構とともに、そして広島県や大学の皆さま方とともに医師の配置あるいは広島大学のふるさと枠の拡大など医師不足に対処し、今後医学生あるいは医師の教育、人材育成に努めてまいりたいと考えております。

われわれ広島県医師会はいかなる状況にあろうとも、公平性・透明性ある姿勢で、市郡地区医師会の皆さまとともに、県民の健康、疾病の予防・治療に全力を尽くします。医療現場からの医療政策を県や国、そして日本医師会に生の声として提言していく所存でございます。

そして、県民・市民が安心して生活ができる社会保障制度の確立のため、国民皆保険制度が崩壊することがないように、医療の営利産業化にならないよう、皆さま方に、特に衆・参両議員の先生方に国政の場でよろしくお願い申し上げたいと思っております。

本日は、たくさんの皆さまにお集まりいただいておりますので、ごゆっくりとご歓談いただきたいと思っております。ご承知のように、今年は冬季オリンピックが開かれます。明るい話題でございます。どうか皆さま方にとりまして、輝かしい充実した1年でありますようご祈念を申し上げます。私の新年の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新春のお言葉



広島県知事
湯崎 英彦

皆さま、あけましておめでとうございます。広島県医師会、ご列席の皆さま方にはすがすがしい新春を皆さんお揃いでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。医師会におかれましては平素から広島県の保健・医療行政の推進、医療を通じての県民の安心に多大なるご尽力をいただいておりますことを、この場をお借りしてお礼と敬意を表したいと思います。

ご承知のように、今、わが国、また広島県においても人口が減少していく中で、少子化・高齢化が進む、非常に大きな社会構造、人口構造の変化に直面しているわけでございます。そういう中で疾病構造の変化あるいは医療需要が大きくなっていく非常に大きな課題に医療界も直面しているわけでございます。

国においても21世紀の新しい社会保障のモデルを作っていくことに1歩踏み出しておられますが、広島県も都市部、そして日本で第2位の無医地区をかかえる過疎地、このような形で日本の縮図とも言える状況があるわけございまして、さまざまな医療と介護、あるいは保健の連携、地域資源を活用して医療を提供していくということ、こういった新しいシステムを作り上げていくことが喫緊の課題になっております。

こうした中で広島県としても新しいモデルの構築を実現するために、さまざまなチャレンジをしているわけでございますが、基礎となるような医師確保対策、救急医療体制の充実、介護と連携した在宅医療の充実等々、会長にもふれていただきました「がん対策日本一」、さまざまな取り組みを進めております。

チャレンジビジョンの中で進めているわけでございますが、広島県地域保健医療推進機構を活用した医師確保、新たな情報ネットワークの構築等々、その成果も出始めているところでございます。こういった取り組みをさらに推進していくためには、地対協を含め、医師会の皆さまとの連携が不可欠でございまして、高精度放射線治療センター（仮称）と地域医療総合支援センター（仮称）、合築も着々と進んでおります。県と医師会が一体となりまして、これからは広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかったと心から思える広島県、それを支える安心な暮らしを実現してまいりたいと思っております。

先生方には引き続き、ご理解とご支援、ご協力をお願いしたいと思います。新年の門出にあたりまして、広島県医師会のますますのご発展とご列席の皆さまのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。私の挨拶と代えさせていただきます。

本日は誠にめでとうございます。



広島市長
松井 一實

年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。広島県医師会の皆さまには新しい年を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。平素から本市の行政につきまして一方ならぬ力添えをいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

先ほど来のお話にありますけれども、わが国は世界に類を見ないスピードで超高齢社会へと移行していく、そんな中で、住み慣れた地域での安心した健康な暮らしの確保、これは内政の最重要課題になっていると言って差し支えないと思います。医療適応体制の強化、医療、介護、予防、生活支援の一体的な提供システムの構築、これも喫緊の課題ではないかと考えております。このような観点から見てまいりますと、市内各区の医師会などからの要望を得まして採択されました在宅医療推進拠点整備事業の推進、これは極めて重要でありまして、各事業者との連携を図っていくことが重要であるとともに、広島市域市民に対します理解の促進が重要課題ということで、私としてはしっかり力を入れていきたいと考えております。

さて、今年は午年であります。世界に誇れる街の実現に向けてさまざまな取り組みがうまくいくようにということで、そして市民がその成果を着実に実感できるような年にしたいと考えているところでございます。私事ではありますが、市長として4年目を迎える年、今年であります。将来の広島という街を占っていく上で大変重要な年であり、またこれまでやってきたことの総仕上げに向けて全力投球していきたいと考えております。そして、その決意を心新たにしているところでもあります。そしてもう一つ、被爆70周年を来年に控えた年でもありまして、被爆都市広島というものの果たすべき役割を再確認するとともに、20年30年を見据えた街づくりに新たな一歩を踏み出す年にしたいと考えております。

そんな中で、広島県医師会をはじめとする関係者の皆さま方には引き続き、ご支援ご協力を

いただければ甚だ幸いであると考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

終わりに、広島県医師会の今後ますますのご発展、本日お集まりの皆さま方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にめでとうございます。



広島県議会議長
林 正夫

新年あけましてめでとうございます。広島県医師会の新年互礼会がこのように盛大に開催されて誠にめでとうございます。

今日は広島県議会からたくさんの先生方をお招きいただきました。厚くお礼申し上げます。県議会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

医師会の先生方におかれましては平素から県民の健康と医療福祉の向上に多大なご尽力を賜っておりまして、厚くお礼申し上げます。

先ほど来、知事からお話があった地域医療再生計画に基づいて大変お世話になっているわけでございます。なんと言いましても医師不足ということ、これを解消することが広島県にとりましても喫緊の課題であろうかと思っております。

そうした中、二葉の里にこれからできます高精度放射線治療センター(仮称)との合築で地域医療総合支援センター(仮称)、この整備も着々とこれからできてくると思われまして。そういう中で広島県の医療体制の充実に向けて、県、市、そして県医師会との取り組みを結んで広島県の医療をしっかりとしたものもっていこうということでございます。われわれも一生懸命それに対しての応援をさせていただくことをお約束させていただきたいと思っております。

最後になりますが、今日お集まりの医師会の先生方、多くのご来賓の皆さま方の本年がすばらしい年になることを心から念じまして、甚だ簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。

今日は誠にめでとうございました。



広島大学学長
浅原 利正

皆さま、新年あけましてめでとうございます。広島県の医療はこれまで広島県医師会を中心として行政、大学、患者、病院も含めて一体となって医療に取り組んできたところで

ありますが、この連携は非常に優れたものであり全国でも高く評価されております。

ご存じのとおり、医学分野においても学術研究の進歩はめざましく、かつまた、わが国が人類が経験したことのない未曾有の超高齢化社会に直面しております。21世紀にふさわしい、新しい医療の再構築が求められていると受け止めております。

広島県においても、全国的にもそうでありますが、病院完結型の医療から地域完結型の医療という新しい目標をもって取り組んでいるところでございます。医師会長からもご案内がありましたように、二葉の里には市内の病院が連携をした高精度放射線治療センター(仮称)ができます。そして、臨床研究もネットワークを構築して開始しようとしています。さらに、それ以上に県内の病診連携を深めていくとともに、病院、診療所が連携したネットワークをさらに強化していき、広島県民に質の高い医療を提供し、そのための医療人材、リソースの有効活用をしていくべきだと考えております。

2014年、新しい年が広島県医師会、ならびに関係者にとりましてますます発展し、そして良い年となりますことを祈念し、また、人類社会にとっても希望に満ちた1年になりますことを心から念じて、挨拶いたします。

誠におめでとうございます。



広島県歯科医師会会長
荒川 信介

皆さま方、新年あけましておめでとうございます。いつも医師会の先生方にはお世話になっている上に、毎年広島県医師会の新年互礼会にお呼びいただき、多くの先生方とお話をさせていただく機会を与えていただき、感謝申し上げます。

今まで皆さん申し上げられたようにこれから2025年に向けて、われわれの医療提供体制は大きく変革をしていく時期に入っていると思っております。これを加速するのが医療法の改正だと思っております。これから先、先生方と手を取って医療提供のあり方について検討して、超高齢社会のピークになります2025年に向けて、体制をとって行きたいと思っております。そのためにも顔の見える連携ということで、本日こういう場にお呼びいただき、ありがたいことだと思っておりますし、先ほど来お話しが出ております二葉の里の件でございますが県行政、特に湯崎知事、県会議長をはじめ、いろんな先生方にお世話になりまし

て、薬剤師会とともに、北側にわれわれも移っていくということになっております。3師会が同じ地域で、密接に連携を取りながら広島県民、ひいては国民のために医療提供をやっていきたいと思っておりますので、これからもなにぶん、よろしく願いをいたします。

広島県医師会のますますのご発展と参集の先生方、医師会の先生方、本当にこの1年がご多幸で、ご健康でありますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

乾杯



広島県薬剤師会会長
前田 泰則

新年あけましておめでとうございます。先輩諸兄のおられる中で、若輩の私が乾杯の音頭をとっていいのかなと思いつつ、とらせていただきます。ちょうど2年に1回の診療報酬の厳しい査定が済んだところでもありますし、素直に乾杯と言えるかどうか分かりませんが、気持ちを引き締めて今年もがんばって行きたいと思っております。

先般、RCCの「イマなま3チャンネル」で薬剤師不足をテーマに取材を受けました。薬剤師も医師不足も地域医療の再生も含めて、今年度は医療関係団体の厳しい将来を見据えてがんばっていきたく思っております。そのためにも国会議員の先生方、県議会の先生方、市議会の先生方、地元の支えがいるということですので、われわれが高齢者になっていくのですが、次の世代を厳しく育てて行かないと支えが弱い、力強くないと感じておりますので、これからの後継者の育成にも先生方のご支援とご協力をいただきたいと思っております。

気を引き締めて乾杯の音頭をとります。これからますます県医師会のご発展とご参集の皆さま方のご健勝とご多幸を祈念して、ご唱和願いたいと思います。

乾杯。



祝 広島県医師会新年互礼会

花柳雅豊氏による「華木遣り」披露